

例えば、遥か50万年以上前のアフリカで、
ホモ・サピエンスとネアンデルタール人が同時期に存在し、
同じ空の下で星を見上げていた痕跡が見つかったとき、

その星が瞬く宇宙には、
100年以上積み重ねた理論では説明できない、
謎の物質が大量に存在することがわかったとき、

私たちは、人類の謎と宇宙の神秘に驚嘆し、
深淵なる世界に思いを馳せる。

そして、世界を多角的にとらえることの大切さに気付いたとき、
無限の可能性が広がり、新たな叡知へとつながる。

多角的な視点をもたらす相互理解

2024年4月、東京大学は、日本武道館で挙行された学部
入学式で、約2,930名の新入生を迎えました。

式辞を通して藤井輝夫総長は彼らに、個人や社会の複雑な構造を理解するための重要な視点を提供する概念であるインターセクショナリティ(交差性)を紹介し、学問に必要な解像度は、時間・空間の物理的な尺度や次元にとどまるのではなく、物事を多角的に捉える姿勢が重要であることを説明しました。そして、世界が多角であることの重視は、ある課題に対する答えが必ずしも一つでないこと

を広く理解することにも繋がること、特に地球規模の課題など複雑な問題において、唯一の正解の強制が分断を招く可能性があること、多角的な視点を持った対話を通じて、より包括的で協力的な解決策を見つけることができることを伝えました。

そして、これから始まる大学生活で多くのひとと出会い、多様な知に触れることで、解決すべき問題の多角性に思いを馳せ、よりよい社会の実現に向けて力を発揮してほしいと激励しました。

2024年度東京大学学部入学式 総長式辞はこちらからご覧になることができます
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b_message2024_01.html